

# キャッチアップ接種の開始期限は1年をきりました

公費で接種を完了する場合、2024年9月末までに1回目の接種が必要※です

※：標準スケジュール(0、2、6か月)接種の場合

公費で接種できるのは  
2025年3月末まで

## HPVワクチン キャッチアップ接種\*対象者<sup>1)</sup>

1997年度生まれ～2006年度生まれの女性  
(1997年4月2日～2007年4月1日生まれ)



2006年度生 16/17歳	2005年度生 17/18歳	2004年度生 18/19歳	2003年度生 19/20歳	2002年度生 20/21歳
2001年度生 21/22歳	2000年度生 22/23歳	1999年度生 23/24歳	1998年度生 24/25歳	1997年度生 25/26歳

2007年度生まれの方は、通常の接種対象(小学校6年生～高校1年生相当)の年齢を超えても、2025年3月末まで接種できます<sup>2)</sup>。

\*ヒトパピローマウイルス感染症の定期接種については、積極的勧奨の差控えにより接種機会を逃した方に対して、公平な接種機会を確保する観点から、時間的に、従来の定期接種の対象年齢を超えて接種(キャッチアップ接種という)を実施する。

1) 厚生労働省 2022年3月11日「HPVワクチンに係る自治体向け説明会 資料「令和4年4月からのHPVワクチンの接種について」」より作成  
https://www.mhlw.go.jp/content/10909000/0003911549.pdf (Accessed Sep. 7, 2023)  
2) 厚生労働省「キャッチアップ接種リーフレット 平成9年度生まれ～平成18年度生まれまでの女性へ大切なお知らせ」  
https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000918718.pdf (Accessed Sep. 7, 2023)

## 子宮頸がんワクチンの推奨方法

HPV9(シルガード9)を選択。  
接種の意義とHPV9の選択理由、その有効性と安全性、考えられる副反応を説明。

上腕三角筋に筋肉注射する。  
気分が悪くなりそうなら側臥位で接種する。  
声をかけながら速やかに接種する。  
接種後、液漏れがないように抑える。

0-2-6か月の間隔には拘らない。  
2回目は初回から2カ月後に計画する。  
3回目は2回目から6か月以上あけるとより長期の免疫維持が期待される。

期限が迫ると国が提案してくるような短縮接種は避ける。検証などはしていない。

1-2回がバラバラでもきちんと3回目を追加。

12～14歳で接種すると良い。14歳までは6か月(半年)あけての2回法とされるが拘らない。既定の3回法の選択を推奨する。

2回目から6か月以上の間隔が難しければ、半年開けての2回法も選択肢に

海外データ  
001試験

## 4価ワクチン(gardasil4)と9価ワクチン(Silgard9)の比較試験

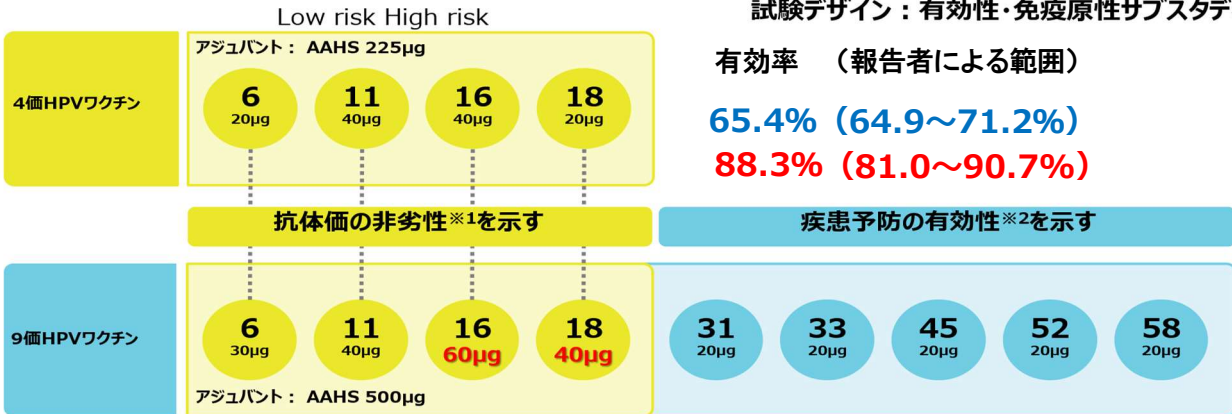
<後期第Ⅱ相/第Ⅲ相無作為化4価HPVワクチン対照二重盲検試験(国際共同試験/検証的)>

試験デザイン：有効性・免疫原性サブスタディ

有効率 (報告者による範囲)

65.4% (64.9～71.2%)

88.3% (81.0～90.7%)



※1：[非劣性の定義] 各HPV型におけるGMTの群間比の95%信頼区間の下限が0.67より大きい(1.5倍以上減少しない)

※2：有効性の主要解析は、主要評価項目であるイベントが0例以上に到達した時点で実施された

【試験デザイン】無作為化4価HPVワクチン対照二重盲検試験

【対象】16～26歳の女性14,204例(日本人女性254例を含む)

【方法】9価HPVワクチンまたは4価HPVワクチンを0、2、6か月の3回接種し、最長54か月まで追跡し、有効性、免疫原性および安全性について評価した9価HPVワクチンの予防効果の点推定値と多重性を調整した信頼区間を算出した。

AAHS：アルミニウムヒドロキシホスフェイト硫酸塩

承認時評価資料 国際共同試験(V503-001試験)(社内資料)

名鉄病院予防接種センター

## 子宮頸がんワクチンのキャッチアップ：2026年3月末まで延長

このワクチンは癌予防ワクチンとしての効果が証明されている唯一のワクチンです。  
シルガード9価(HPV9) ワクチン3回接種後、生涯に発症するであろう子宮頸がんを約90%予防できます。

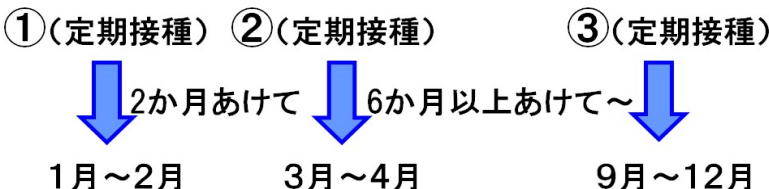
スウェーデンでの接種後10年間の実証データが報告されています。

ガーダシル4価を接種した17歳以下のグループでは、88%で発症を予防できていました。  
接種時の痛みと2日間ほどの筋肉痛はありますが、心配するような副反応は極く稀です。  
安全性も有効性も証明されていますので、安心して接種してください。

推奨される通常の接種間隔は、1回目と2回目は2か月あけて、2回目と3回目は6か月以上あけるように計画接種します。

2025年3月までに1回でも始めれば1年間の延長期間で完了できます。

娘さんの安全と健康のためには朗報ですからぜひ、遅れないように利用しましょう。



11月になると、1か月後の12月に2回目、そして3か月後の3月に3回目接種できますという提案が出てきますが、そのような接種間隔での検証はないのでご注意ください。